

4 日目（6/19 水曜日）

1. 6時半起床。朝、ホテル周辺を少し散歩。

2. お迎え（9：30）

李クンはこの日大阪へ帰ったため、劉クンのみが車でお迎えに。

3. 2010 年の上海万博 EXPO2010 会場「世博会博物館」へ（10：00～）



（1）＜洋华瓷彩展へ＞

1) 李クンは近時、中国人向けの“高野山ツアー”の業務が順調に推移しているため、忙しい毎日を送っている。そんな状況下にながら彼は、私の上海旅行のためにわざわざ上海に戻り、劉クンの車で私の案内をしてくれていたらしい。そのことがはっきりわかったのは、「6月18日の早朝から、高野山ツアーのため日本に戻る」と聞かされた時だ。私の上海旅行のためにそこまで注力してくれていたことを知って、改めて感謝！

2) 李クンが6月18日早朝、日本に戻ったため、今日は9時半に劉クンのみが車でお迎えに。今日の午前中の見学は上海万博 EXPO2010「世博会博物館」だ。2025 年の大阪万博は事業費が膨れ上がるわ、パビリオンの建設が遅れるわ、と大変だが、2010 年の上海万博は大成功！私はその現場に行くことはできなかったが、その会場見学は大いに楽しみだ。今日の最初の見学は「洋华瓷彩展」だが、ハッキリ言ってこれはかなり不満。なぜなら、陳列されている美術品（壺）は素晴らしいもののなのだろうが、私にはサッパリわからないから、6月16日に上海観復博物館で見た金銀財宝（？）に比べれば、インパクトは低かった。



(2) <影絵（皮影）を見学>

1) しかし、続く影絵（皮影）にはビックリ！私が中国の皮影（ピーイン）をはじめて知ったのは、張芸謀（チャン・イーモウ）監督の『活きる』（94年）（『シネマ2』25頁）を見た時だ。贅沢な家庭に育ち、サイコロバクチにうつつをぬかした挙げ句、家屋敷を取られてしまい、一文無しになってしまった主人公福貴（葛優／グォ・ヨウ）が同作中盤、「影絵芝居は卑しい仕事だと思われているが、食うには困らない」と聞かされ、以降これを自分の天職として懸命に生きていく姿は感動的だった。

2) そのため、西安旅行や北京旅行では何度も影絵のお土産を購入したが、四方のスクリーンに次々と巨大な映像が映し出される影絵を見た（体験した）のは、今回がはじめてだ。私が知っている影絵は、写真のようにスクリーンの後ろに立って、両手で影絵を操り、前方の観客にそれを見てもらうという“原始的な影絵”だが、ポスターに『中国光影原创』と題された“現代的な影絵”は、巨大な空間の中で様々な角度から四方の壁に映し出される光と影の芸術になっているからすばらしい。こんなすばらしい体験ができたことに大感謝！





参考：皮影戲（世博会博物馆 临展厅 2 3 《一梦华胥:中国皮影光影艺术展》にて）

<https://kageboushi.com/publics/index/18/>

（3）＜2010 年の上海万博と万博の歴史＞

世博会博物館では、1851 年にロンドンで開催された第 1 回のロンドン万博から来年 2025 年の今までの万博の歴史が広大な会場で展示されていたので、これを興味深く見学。





4. 四行倉庫を見学

1) 四行倉庫の見学へ

午後からは劉クンと別れ、ガイドが孫晨俊クンの友人の張クンに交代。張クンは車なしなので、タクシーで移動。

中国映画『八佰 (The Eight Hundred) 』 (20 年) (『シネマ 54』177 頁、『シネマ 48』190 頁) は、『戦狼 2』 (17 年) に続く戦争大作で、『1950 鋼の第 7 中隊 (長津湖) 』 (21 年) と共に大ヒットした近時の戦争映画大作だ。1937 年 7 月 7 日に起きた盧溝橋事件後の、上海での日中の軍事衝突は如何に？なぜ蒋介石は、「四行倉庫」の死守を命じたの？四行倉庫での『アラモ (THE ALAMO) 』 (『シネマ 6』112 頁) のような攻防戦やそこでの玉砕に、どのような意義があるの？そんな問題意識を持っている私にとって、“四行倉庫”が観光名所 (?) になっていると聞くと、こりゃ必見！その充実した内容にビックリ！



2) 四行倉庫ってナニ？どこに？四行倉庫の戦いとは？

中国旅行大好き人間の私は、何度も上海旅行をしている。その中で、1921年に開催された中国共産党の第1回党大会の記念館（李漢俊の自宅）も見学したし、森ビルが上海の浦東新区に建設した「上海環球金融中心」の最上階の見学もした。上海では、外灘を中心とするロマンチックな夜景や黄浦江遊覧のナイトクルーズ等が観光名所だが、この外灘は、西欧列強が公共租界として使用したところだ。日本側からいう「上海事変」は、「第1次上海事変」（1932年1月～3月）と「第2次上海事変」（1937年8月～11月）がある。そして、その第2次上海事変で、日中が最後の攻防戦を繰り広げたのが「四行倉庫の戦い」だ。



前掲の地図は Wikipedia に掲載されている地図だが、この地図のとおり、「四行倉庫」は蘇州河を隔てて南側の公共租界の対面（北側）にある建物だ。

3) 四行倉庫の「死守」を命じたのは？その激闘は？

他方、当時の中国軍（の主力）は現在の中国の人民解放軍ではなく、国民党の蒋介石率いる国民党軍だ。そして、四行倉庫の戦いは、1937年10月27日から31日までの5日間の攻防戦。蒋介石は、一方では限定的撤去を命じて中国軍を蘇州河の南岸に移動させながら、他方では蘇州河北岸にある「四行倉庫の死守」を命じた。これは、北側の四行倉庫を死守させることによって内外の人々の心を感動させるためらしい。Wikipedia によれば、現に10月28日に蘇州を訪れた蒋介石は、「第3戦区の師長以上の将領の前で長文の演説を行ったが、この中で、一個団を残して閘北の死守を命じた理由について、中国人が主義のために戦い、国を守るために死ぬ覚悟と精神を持っていることを世界の人々に示し、心理的に敵に圧力をかけるためであったと説明した。」そうだ。その結果、四行倉庫の戦い（死闘）は10月28日から31日まで続いたそうだから、すごい。なるほど、なるほど・・・。



1937年10月31日凌晨，四行仓库守军奉命全部撤离，进入公共租界，被租界当局滞留在胶州路兵营。四行孤军坚贞不屈，继续进行抗日斗争，保持了不畏强暴的民族气节。日本侵略者视谢晋元等爱国官兵为眼中钉。1941年4月24日，谢晋元被日伪收买的叛兵刺杀，不幸身亡。社会各界举行了隆重的追悼活动，以纪念和缅怀这位抗日民族英雄。

4) なぜタイトルが『八佰』に？

紀元前5世紀に、スパルタ軍が100万のペルシャ軍と戦って玉砕した「テルモピュライの戦い」を描いた『300 スリーハンドレッド』（06年）では、劇画タッチの映像が斬新だったし、“スパルタ教育”に象徴される「退却しない。降伏しない。ひたすら戦うのみ」という、スパルタ軍の哲学(?)に圧倒された(『シネマ 15』51頁)。また、ジョン・ウェイン主演の『アラモ』（60年）と、『アラモ (THE ALAMO) 』（04年）(『シネマ 6』112頁)では、1836年春に起きた「アラモ砦の悲劇」をしっかりと味わうと共に、今はアメリカ合衆国の一部になっているテキサス州が、いかなる犠牲の上でメキシコからの独立を勝ち取ったのかという歴史を学ぶことができた。それに対して、『八佰』では今、謝晋元中佐(杜淳)を司令官として四行倉庫を守る兵は、400名余り。彼らはドイツ式訓練兵で、公表は800名。なるほど、なるほど。

もっとも、同作導入部では、湖北軍が524団に合流する姿が映し出されるが、その実態は？四行倉庫の戦いについては、Wikipediaが詳しく解説しているので、それは必読！

5) 四行倉庫 VS アラモの砦。それを死守する意味は？

日本が盧溝橋事件を起こしたのは1937年7月7日だが、それを受けて、南京政府の中華民国総統・蒋介石は、“徹底抗戦”を表明した。日本政府は、一方で在留日本人の安全を名目に海軍陸戦隊を投入したが、他方で「不拡大方針」を採っていた。しかし、「大山中尉殺害事件」等によって衝突は拡大し、北支事変から支那事変へ、すなわち、全面的な日中戦争に突入していった。蒋介石が兵力をケチりながらも、四行倉庫の「死守」を命じたのは、前述したとおり、中国人民の奮闘ぶりを世界各国にアピールするため。しかして、同時に蒋介石は、当時開催されていたブリュッセルでの国際会議に期待していた。南側の租界には西欧列強の人々が住んでいたから、「四行倉庫」を艦砲射撃すれば、租界に流れ弾が着弾する恐れがあり、そうなれば日本が西欧列強から非難されるのは必至。しかして、日本軍は四行倉庫に対していかなる攻撃を？逆に、それに備えて、謝晋元中佐はいかなる防御陣地の構築を？

6) 八佰は全員玉砕？それとも？

『硫黄島からの手紙』（06年）(『シネマ 12』21頁)では、いかに長い間米軍を硫黄島にくぎ付けにするかを最大の命題にした渡辺謙演じる栗林忠道陸軍中將は、文字通り矢尽き刀折れた後に自決。また、日本将兵は全員玉砕した。また、「アラモの砦」では、砦内に侵入してきたメキシコ兵の前に、守備兵は全員玉砕した。しかして、四行倉庫の戦いでも、423名の兵士は全員玉砕！私はてっきりそう思っていたが、真実は違うらしい。すなわち、イギリスが間に入って撤退交渉をした結果、四行倉庫の戦いのラストは、“玉砕”とは正反対の“生き延びろ！”との命令に急展開するので、それに注目！

7) なぜ「ダニー・ボーイ」の曲が？優秀历史建筑とは？

そして、同作のラストは、なぜか「ダニー・ボーイ」の曲が流れたからビックリ！これは一体なぜ？そんな素朴な疑問とともに、私は同作を感動的に見終わったが、2014年6月

19日の今、私の目の前に87年前の四行倉庫の姿がそのまま登場！こりゃ、すごい。私は2012年8月16日～24日の上海・合肥・南京旅行で南京の侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館を見学したが、中国の博物館は実物大の人形でリアルな像を作り出しているのが大きな特徴だ。これなら誰が見ても実感が得られるので、その時々状況がわかりやすい。中国人の大嫌いな日本の靖国神社の遊就館には、若くして神風特攻隊の隊員として死んでいった若者たちの手紙が多数展示されているが、それはここでも同じだ。そのような歴史を持つ四行倉庫が「优秀历史建筑」として保存されていることに感動するとともに、劉クンの案内のおかげでそれをじっくり見学できたことに感謝！



5. 上海電影博物館[SHANGHAI FILM MUSEUM]の見学へ

- 1) 上海は中国映画の揺籃地。この博物館は上海電影集団が運営しており、租界時代から続く映画制作の歴史と、制作手法の変遷を展示が充実しているそうだ。等身大マネキンによるスタジオ撮影再現など、迫力ある展示が素晴らしい。



2) 私が見学した当日は、『芙蓉鎮』（87年）（『シネマ5』91頁）や『阿片戦争』（97年）（『シネマ5』161頁）で有名な謝晋（シエ・チェン）監督の100周年記念特別展をしていたからラッキー！こんなすばらしい時間を存分に楽しむことができたことに感謝！





3) なお、上海にはもう 1 つ、「上海影視樂園」があるらしい。これは、オールド上海を再現した映画セット村で、広大な園内に並ぶ建物はとても精巧にできており、タイムスリップしたような感覚になるそう。しかし、これは上海市内から車で 1 時間くらいかかる郊外にあるため、その見学は次回のお楽しみにすることに

6. 昨日のマッサージした康経堂へもう 1 度

昨日のマッサージ店に連絡すると、本日も OK となった。坂和については、“健康診断”のうえ、特別の処置で 290 元。



7. 夕食会（17：00～19：00）

夕食会のレストランは張クンのお薦め店。上海の地元料理は少し高価だったが美味しかった。



8. タクシーでホテルへ シャワーをして就寝